

# 石川県立美術館だより

平成18年9月1日発行 第275号

「国宝」誕生110周年記念特別公開

## 国宝 信貴山縁起絵巻



9月1日(金)～9月24日(日) 会期中無休

特別陳列

- 日本画家 -

## 百々俊雅 の世界

8月24日(木)～9月24日(日) 会期中無休



日曜日 百々俊雅

### 目次

信貴山縁起絵巻	2	ミュージアムレポート	6
百々俊雅の世界	3	TOPIC松田権六展	6
尊經閣文庫名品展	4	現地見学募集要項	7
琳派	5	所蔵品紹介	8
主な展示作品	5	ミュージアムショップ通信	8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

企画展示室(第7~9展示室)

「国宝」誕生110周年記念

国宝 信貴山縁起絵巻

9月1日(金)~9月24日(日) 会期中無休

主催/北國新聞社、石川県立美術館、信貴山総本山朝護孫子寺



山崎長者の巻

空を飛ぶ鉢が山崎の長者の米倉を命蓮のいる信貴山上に運んだが、命蓮の法力により米俵だけは長者の家に戻ったという話。

今日の文化財保護制度の原型であり「国宝」という言葉を最初に用いたのは、明治三十年(1897)に公布された古社寺保存法です。その古社寺保存法の運用の中核であった国宝調査室で長く中心的役割を果たしたのが、金沢に生まれた中川忠順(明治六年~昭和三年)です。  
そこで本年が古社寺保存法公布百十周年にあたることから、文化財の指定と保護に尽力した中川忠順の故郷金沢において、日本美術史上重要な位置を占める国宝「信貴山縁起絵巻」全三巻全画面を初めて同時公開することとなりました。



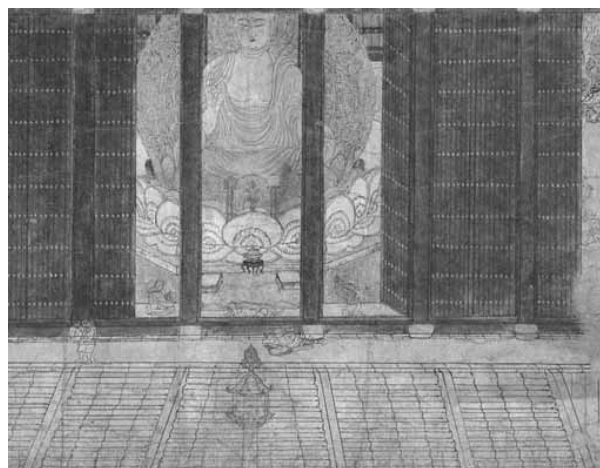
延喜加持の巻

時の延喜帝(醍醐天皇)の病気を、命蓮が祈祷により治癒した話。命蓮の祈祷により治癒したという証明に剣の護法という護法神「護法童子」を遣わしたという話。

信貴山縁起絵巻は、「源氏物語絵巻」「伴大納言絵巻」「鳥獣戯画」とともに四大絵巻の一つで、平安時代中期に信貴山(現奈良県)の朝護孫子寺を中興した僧、命蓮にまつわる説話が描かれています。  
山崎長者の巻(飛倉の巻)、延喜加持の巻、尼公の巻の三巻からなり、今日のアニメーションにもつながる画面展開は、物語としての楽しさ、絵画としての秀逸な表現力の高さを併せ持ち、最も魅力ある絵巻となっています。卓抜な構図の妙、いきいきとした筆の運び、繊細な色彩表現などは、鑑賞者を魅了せずにはおきません。

尼公の巻

年老いた命蓮の姉・尼公が、信濃の国から弟を尋ねて奈良に至り、東大寺大仏の夢告により信貴山に登り、弟とめぐりあい一緒に住むことになったという話。



この展覧会は、国宝「信貴山縁起絵巻」を特別に公開するもので、史上初めて全三巻を同時に、巻頭から巻末まで通して、その全貌をご覧いただく大変貴重な機会となりますので、是非ご鑑賞下さい。

観覧料

観覧料	個	人	団体(20名以上)
大人	1,200円	900円	900円
中高生	800円	600円	500円
小学生	600円	300円	300円

当館友の会員は受付での会員証提示により、団体料金になります。

今月のコレクション展示室

(第4展示室)

特別陳列

- 日本画家 - 百々俊雅の世界

8月24日(木)~9月24日(日) 会期中無休

講演会

演題 「日本画と私」  
講師 百々俊雅 氏  
日時 9月3日(日) 午後1時30分~  
会場 当館ホール [聴講無料]

昭和十四年、大阪市に生まれた百々氏は、高校生の頃、雑誌で京都の日本画家・西山英雄氏の躍動感あふれる絵に出会って感動し、絵の道に進みます。三十四年に金沢美術工芸大学美術学科絵画専攻日本画に入学して研鑽を積み、在学中に現代美術展で最高賞を受賞したり、全関西展に出品するなど、活発に制作活動を行っていきました。三十八年に卒業した後、西山氏に師事し、その色彩豊かで力強い表現に刺激を受け、自己の作風を追究していきます。一時期、朝日新聞大阪本社広告部デザイン室に勤めながら制作を続け、四十六年には日展に初入選しました。その後、五十二年に、当時、金沢美術工芸大学で教鞭を執っていた西山氏に誘われて母校に赴任することになり、以来、平成十六年まで熱意を持って後進の育成にあたりました。その間、日展を中心に作品を発表し、平成元年には日展で特選を得ています。また、日春展では奨励賞（昭和五十八、五十九、六十、平成六、九年）・日春賞（平成四、十三年）、菅原彦大賞展では準大賞（平成五年）を受賞するなど、日本画壇に着実に自己の足跡を残していったのです。

百々氏のモチーフは、主に現代に生きる女性であり、作者の身近に接した豊かな自然や、現代都市の営みを背景にして、鮮やかな色彩と装飾的な構成によって、華麗でしなやかに表現されています。中には、母子の麗しい情愛を感じさせる作品も見られ、作者の暖かいまなざしや生きる喜びが、画面から伝わってくるようです。さらに近年は、『金沢百景』として、四季折々にさまざまな姿を見せる金沢の街並を、情緒豊かにとらえたスケッチを発表して注目されました。

本展は、百々氏の代表作を一堂に展示し、その画業を振り返るとともに、氏の華やかな現代の女性美の世界をご覧いただくこととするものです。



内 昭和五十九年



招く日 平成十年



石川県立音楽堂『金沢百景』より  
平成十五年

## 今月のコレクション展示室

(前田育徳会展示室)

## 特別陳列

## 尊經閣文庫名品展

8月24日(木)~9月24日(日) 会期中無休

## 「尊經閣文庫名品展 ― 経典・仏典の優品と日本の漢詩文 ―」

江戸時代中期の儒者、新井白石は「加賀は天下の書府」と評したと伝えられるように、加賀藩第三代藩主前田利常に始まる書物・名品の収集は、四代藩主光高を経て、五代藩主綱紀(綱紀の収集品を特に「尊經閣蔵書」と称する)に至り、質量ともにわが国を代表する文庫の一つとして成立し、五代藩主以降も書物と名品の充実が図られて今日の前田育徳会に引き継がれています。収集品は各種の書籍・典籍、美術工芸品のほか、藩主前田家の什物・武具なども加えた多彩なジャンルにわたるものです。その中では、わが国の古典文学・古記録・古文書類が著名ですが、漢詩文と仏典関係作品にも名品や逸品が多くみられ、中でも漢籍にわたる漢詩文関係の作品群は、和本関係コレクションにも迫る充実度が窺えるものとなっています。本展では今まで展示機会の少なかった漢詩文関係作品の中でも、日本人の漢詩文関係作品と、仏典関係の優品を展示し、育徳会のコレクションのもう一つの顔を眺めるものです。

漢詩文コーナー わが国の文物の多くは伝統的に、大陸文化に発してその影響下で培われ発展してきたもので、もちろん、わが国の漢詩文も大陸からの、文芸作品と思想の請来を契機として、継承と発展を繰り返して、それぞれ特徴をみせる時代画期を形成しています。

このコーナーでは、わが国における漢詩文の変化・流れに沿って、画期となる四つの時代に分けて構成するもので、それぞれの時代

の代表作について尊經閣文庫所蔵品中の名品を展示するものです。

具体的には、奈良時代から平安時代前期にかけては、現存する我が国最古の漢詩集である「懷風藻」写本をはじめとして勅撰集の一つである「文華秀麗集」写本や「菅家後集」写本など。藤原時代(平安時代後期)から鎌倉時代にかけては、宮廷官人の漢詩集である「本朝麗藻」写本や、「資実・長兼両卿百番詩合」写本などの、詩合・詩歌集などを中心に、また南北朝時代から室町時代にかけては、当時の漢詩文の中心であった五山文学における漢詩文集である「絶海録(附)蕉堅藁」の版本など。さらに江戸時代前期としては「南郭文集」を代表とする活発な展開を示した儒家の漢詩文集を、さらに「黄檗高泉詩」のように黄檗僧による漢詩文の代表作を、さらに朝鮮通信使との贈答詩集である「和漢唱酬集」などについても取り上げるものです。展示では、育徳会所蔵本にしか見られない希少本や、古活字本など多彩なスタイルの本が展示されることも見所の一つといえましょう。

仏典コーナー 仏典コーナーでは、経巻と仏書の優品を中心とする展示です。経典は、

装飾経料紙の華麗な美と書の融合が特徴となつていますが、書写した人物や書写・奉納者の動機や折り、さらに書写の背景なども鑑賞の重要なポイントとなっています。「国宝 賢愚経残卷(大聖武)」は特殊な料紙(茶毘紙)に、唐風の堂々とした書風を誇るもので、聖武天皇宸筆として伝えられたものです。また「国宝 宝積経要品」は、足利尊氏・義直、夢想疎石が「大宝積経」の要品(主な章段)を書写したもので、紙背の本紙は光明院をはじめ、尊氏・義直、夢想疎石ら二十七人の和歌短冊を継ぎ連ねた折本で出来ているというたいへん珍しいものです。



檜繪図屏風 依屋宗達

今月のコレクション展示室  
(第2展示室)

特集 琳派

8月24日(木)~9月24日(日) 会期中無休

館藏品・寄託品による「琳派」展を開催します。「琳派」は桃山時代後期に本阿弥光悦、依屋宗達にはじまり、江戸時代中期の尾形光琳、尾形乾山に引き継がれ、江戸時代後期には酒井抱一、鈴木其一などによって江戸の地で復興された芸術様式です。それは大和絵の流れを汲みながら、大胆な構成と卓越した技法で豊かな装飾性に満ちた芸術で、絵画にとどまらず、工芸や書をも含めた総合芸術といえます。

「琳派」が注目されるようになったのは近代になってからのことです。本来の流派とは、たとえば「狩野派」や「土佐派」のように師匠から弟子へと相伝のかたちで、その技法や様式が連綿と受け継がれて伝えられていくものです。ところが「琳派」の場合は、師弟関係ではなく、光琳は宗達に、抱一は光琳にそれぞれ私淑することで、自己の画風を確立していきます。それ故に「琳派」は単に流派の様式の継承ではなく、美の確かな継承者としての結びつきの深さが認められます。視覚的には装飾的、あるいはデザイナー的といわれる「琳派」の表現は、日本の美意識である「不完全の美」であり、また芸道思想によるものといえます。そうした日本文化の本質を求めた芸術であるが故に、観者を惹きつける力があるのでしょう。今日では日本のみならず、世界的にも日本を代表する芸術としての評価が確立しています。

最近では光琳の『紅白梅図屏風』や『燕子花図屏風』(いずれも国宝)の科学的調査の結果から、金箔使用の有無問題がメディアをにぎわせております。このように、何百年の時を超えた現代でも作品の魅力と謎は深まるばかりです。

今回は、本阿弥光悦、依屋宗達、依屋宗雪、喜多川相説、尾形光琳、尾形乾山等の絵画・工芸・書の世界を十五点展示しますので、お楽しみ下さい。

<p><b>前田育徳会展示室</b></p> <p>賢愚経残卷(大聖武)第三卷 宝蹟経要品</p>	
<p><b>第1展示室</b></p> <p>色絵雄香炉 色絵雌雄香炉</p> <p>野々村仁清 野々村仁清</p>	
<p><b>第2展示室</b></p> <p>色紙貼交秋草図屏風 檜繪図屏風 青手老松図平鉢 古九谷</p> <p>本阿弥光悦 依屋宗達</p>	
<p><b>第3・第6展示室</b></p> <p>【日本画】 視流 【油彩画】 1982年 私 タンクの多い工場</p> <p>中村 徹 曲子光男 鴨居 玲 森本仁平 石田康夫 坂 坦道 高光一也</p>	
<p><b>第4展示室</b></p> <p>【素描】 タイ・ビルマスケッチ</p> <p>百々俊雅 百々俊雅</p>	
<p><b>第5展示室</b></p> <p>日曜日 招く日</p> <p>深厚釉組皿 網代重箱 暁天 太刀 截金松盤 重陽 友禅薄茶地金銀摺箔花びら散文振袖 響秋</p> <p>三代徳田八十吉 小森邦衛 隅谷正峯 西出大三 羽田登喜男</p>	
<p>一般 350円 大学生 280円 高校生以下は 無料</p>	<p>個人</p>
<p>一般 280円 大学生 220円 高校生以下は 無料</p>	<p>団体(20名以上)</p>



タンクの多い工場 森本仁平

今月のコレクション展示室  
主な展示作品

8月24日(木)~9月24日(日)

= 国宝 = 重要文化財 = 石川県指定文化財

## ミュージアムレポート

### キッズ☆プログラム 鑑賞講座

矢野倫真 水彩画を鑑賞しよう 7月1日(土)



小学生を対象としたコレクション展示室鑑賞講座2回目、今回は「矢野倫真 水彩画を鑑賞しよう」と題して矢野倫真の水彩画を中心とした第3展示室を鑑賞しました。

講義室で矢野倫真について少しお話ししたあと、水彩紙と水彩絵の具を触ってみました。その後展示室に移動し、100年前に描かれた水彩画に面しました。小学生が学校で使用する絵の具はほとんど水彩絵の具ですので、表現に関心が高く、「どんな色が重なっているの?」「ここは何色?」と細かな部分まで鑑賞していました。「この中で一つ好きだなと思う絵を教えてください」という問いかけに、「あまりにきれいなものばかりで…どれにしよう」「ひとつなんて選べない」という感想が多かったようです。

次回の鑑賞講座は9月2日(土)「百々俊雅の世界を鑑賞しよう」です。

### キッズ☆プログラム 体験講座

夏休み 親子で楽しむ美術館 親子で鑑賞会

夏休み特集展示「親子で楽しむ美術館」にあわせて、今年も小学生とその保護者を対象に作品鑑賞を楽しみ、材料の制作体験をして美術に親しんでいただくとう「夏休み 親子で楽しむ美術館 親子で鑑賞会」を企画しました。

小学生向けのコレクション展示鑑賞・体験講座を開いて4年目になりますが、毎年定員をはるかに上回る応募をいただきありがとうございます。いつもたくさん応募いただく小学1・2年生は同じ内容で午前・午後と回を増やした「ぺたぺたころころ スタンプ!」、小学3・4年生は「工芸に挑戦!」、小学5・6年生は「日本画に挑戦!」と、それぞれの学年に応じたプログラムを準備し、作品の鑑賞と、作品の制作や材料体験に親子で楽しく取り組みました。この様子は当館のホームページでご覧になれます。



## ギャラリートーク 「古九谷名品選」

今回のトークは、映画「ダ・ヴィンチコード」の公開が話題を呼んでいた時期であったことも考慮して、古九谷という「象徴の森」に大胆に踏み込んでみました。中国において色絵磁器は、「長命富貴」への想いの担い手でした。古九谷が松竹梅や鳳凰、布袋、海老、宝尽くしなどを題材としているのは、技術のみならずそうした文化的背景も継承したことによると考えることができます。

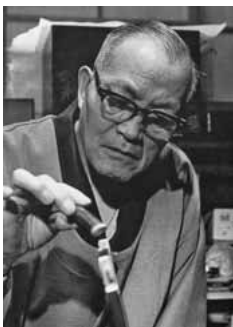
それでは、「ダ・ヴィンチコード」の視点から樹木、葡萄、魚、鶴、数字の9をどのように読み解くことができるでしょうか。詳細は省きますが、他の作品に見られる十字の意匠とともに、これらはキリスト教信仰の文脈に結びつけることができます。当日はこの点で来場者の方々と共に議論が盛り上がり、「延長戦」に突入したことも報告しておきます。



## 企画展TOPIC

### 「人間国宝 松田権六の世界」第2回

9月29日～10月29日



撮影 大堀一彦

前回、松田芸術が徹底した古典の研究に立脚していることを述べました。松田の研究領域は実に広範です。まず出自である加賀蒔絵から、その流れを形成した桃山、江戸。そしてその源流である奈良、平安時代、そしてそれらを通底する美意識としての琳派。さらに日本漆芸に多大な影響を与えた中国や朝鮮の文物に及んでいます。

それは同時に、中国由来ではない日本独自の技法や、その特質が最大限発揮される美意識としての「日本的なるもの」を探求する歩みでもありました。英語でチャイナが陶磁器を指すように、ジャパンは漆器を指します。それゆえに、松田は漆芸において日本文化の独自性を再発見するとともに、その継承と発展に終生情熱を注いだのです。4月号の「美術館だより」に同封した第1弾のチラシには、Discover JAPAN(うるし)と記されていたことをご記憶のことと思いますが、松田権六の業績を短く表現するとすれば、こうなるのではないのでしょうか。

今回の展覧会では、松田の直接的な関与の観点から具體的な作品によってその孤高の歩みの一端をご紹介しますと思います。さらに今回は共通観覧券によってコレクション展もあわせてご覧いただけますので、同時期に開催される「加賀藩の美術工芸」(前田育徳会展示室)、「加賀文化の華」(第2展示室)、そして「卒寿記念 人間国宝 大場松魚展」(第5展示室)に展示される名作の数々を通して、漆=ジャパンを一層身近に感じただけのものと考えております。

最後に、関連催事についてもお知らせします。まず10月1日(日)には本館館長による講演会が、さらに10月15日(日)には、人間国宝の川北良造氏、前史雄氏、そしてこの度新たに認定される小森邦衛氏と本館館長の4人に生前の松田権六の想い出や、知られざるエピソードを語っていただく座談会が、それぞれ午後1時半から本館ホールで開催されます。これらによって松田権六の人となりに親しみを感じていただければ、作品鑑賞もより味わい深くならないでしょうか。その他10月14日(土)の美術講座、会期中毎週日曜日に展示室で行うギャラリートークなど本館学芸員が担当するプログラムにも是非ご注目いただきたいと思っております。

# 第36回 現地見学参加者募集

～長野ゆかりの美術家をたどる～

期 日 10月14日(土)～15日(日)  
 1泊2日 宿泊は長野市  
 参加費 20,000円(友の会会員以外は21,000円)  
 募集定員 45名(対象は原則として成人)

## 見学予定地

長野県信濃美術館・東山魁夷館、水野美術館、  
 池田満寿夫美術館、清水寺、碌山美術館、  
 安曇野ちひろ美術館

出発時刻と場所は以下の2ヶ所となります。

美術館 - 午前6時30分

JR金沢駅 - 午前7時

食事については、旅行代金に2回の昼食と翌日の朝食代が含まれますが、夕食は各自でお願いいたします。

宿泊はシングルルームの利用となります。

2日目の到着時刻は金沢駅に午後6時45分を予定しておりますが、交通事情等により前後する場合があります。

美術館からご乗車の方でお車をご利用の方は翌日までの駐車が可能です。

## お申し込みの方法

往復はがきに下記の事項をご記入し、ご応募下さい。  
 参加証を発行します。応募多数の場合は抽選を行い、参加者を決定させていただきます。抽選会は公開の形で9月13日(水)午前中に行います。立ち会いご希望の方は11時までに当館講義室へご来場下さい。

往復はがき裏面に文化財現地見学参加希望と明記し、住所・氏名・年齢・会員番号・バスの乗降場所(美術館の場合、駐車希望の有無)をお書き下さい。

返信はがきの表面には、返信先(住所・氏名)をお書き下さい。

返信はがきの裏面には、何も書かないで下さい。

応募先 〒920-0963 金沢市出羽町2-1  
 石川県立美術館文化財現地見学旅行あて  
 応募締切 平成18年9月12日(火)必着

応募希望者1名につき、往復はがき1通でご応募下さい。お一人で何通も出されたものや、連名のもの、記載事項が不備なものなどは無効となりますのでご注意ください。

当館からの返信は再発行いたしません。

## ご注意

当選後、参加の権利をキャンセルされる場合は、必ず当館へご連絡下さい。その後当館よりキャンセル待ちの方へ順番に参加権をお譲りいたします。2日間にわたるバスでの移動となります。移動と観覧時間には十分配慮いたしますが、お身体の具合に自信のない方は、今回の参加をご遠慮下さい。

## 9月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月 日	行 事	内 容	会 場
9/2(土)	キッズ鑑賞講座	百々俊雅の世界を鑑賞しよう 小学生対象となります (前多武志主任主事)	講義室
9/3(日)	講演会	日本画と私 (日本画家・金沢美術工芸大学名誉教授・百々俊雅氏)	ホール
9/9(土)	美術講座	琳派 - 光悦と加賀文化 - (末吉守人学芸第一課担当課長)	講義室
9/10(日)	月例映画会	信貴山縁起絵巻 説話空間と漂白のこころ	ホール
9/16(土)	美術講座	「国宝 信貴山縁起絵巻を読む」 (村上尚子学芸主任)	講義室
9/17(日)	月例映画会	信貴山縁起絵巻 説話空間と漂白のこころ	ホール
9/23(土)	美術講座	保存の話 - 文化財と害虫 - (宮衛学芸第二課長)	講義室
9/24(日)	月例映画会	信貴山縁起絵巻 説話空間と漂白のこころ	ホール
9/30(土)	ギャラリートーク	卒寿記念 大場松魚展 (末吉守人学芸第一課担当課長)	展示室

9月の全館休館日は25日(月)～27日(水)です。

作者の作品には、身近な生活の場や情景を描いたものが多く見られます。この作品も、作者が日常生活の中で出会ったひとつの光景でしょう。色彩は、幾重にも複雑に重ねられ、重厚で味わい深いものとなっています。また、建物のフォルムは、固い線で決定されているのではなく、感覚的で揺れ動くような印象を与え、そこに作者の息づかいが現れているようでもあります。

「僕は生来不器用で、何事にも論理性というものを持ち合せないもんですから、失敗を繰り返して自分らしさを見つけ出していくしか仕方がないと思っています」と作者は語っていますが、この画面には、一人の人間として現代を生きる画家の生活臭が漂い、見るものに親近感を与え、忘れられていた懐かしい郷愁を呼び起こすのです。

輪島市に生まれた山本氏は、少年・青春を金沢で過ごしました。そして、金沢美術工芸大学で日本画を学び、そこで京都から赴任していた京都画壇の重鎮・西山英雄氏に強く影響を受けることとなります。48年に卒業した後、地元で中学校の教員となりますが、一年後、日本画家としての道を歩むことを決意、京都に出て、本格的に西山氏に師事することになりました。

50年に日展に初入選し、以降、毎年出品しています。61・平成8年には特選を得、着実に自己の画風を形成していき、日春展、京展で受賞を重ねるとともに、京都画壇日本画秀作展、山種美術館賞展、菅橋彦大賞展等にも出品、旺盛な制作活動を続けておられます。日展会友。



しちや  
質屋  
やまもと たかし  
山本 隆 昭和24年(1949)～

平成3年(1991) 第23回改組日展  
縦195.5 横195.5(cm)

## ミュージアムショップ通信

行く夏を惜しむ蝉の声もあと僅か、気力を更に充実させていきたいですね。さて、いよいよ次回は郷土が生んだ“うるしの神様”松田権六の展覧会となりました。今回のミュージアムショップ通信では松田権六展にちなんで、うるしの紹介をしたいと思います。

「帯紋干菓子盆」と「帯紋銘々皿」。当館所蔵の能装束「桃色地山道文摺箔」（19世紀）を模したものです。立涌くずしを横に用いた「山道」の文様は横縞のふぞろいな曲線で形取られ、それがあたたかも山の道のあるいているような変化をあたえています。能装束では桃色地に金の摺箔で表現されていますが、商品の方は朱漆に金で現代的に表現されています。是非ショップにもお立ち寄りくださいね。



帯紋干菓子盆 4,500円  
帯紋銘々皿 8,500円



桃色地山道分摺箔  
(当館所蔵)

### 次回の展覧会

企画展 人間国宝 松田権六の世界  
(企画展示室)

9月29日(金)～10月29日(日)

特別陳列 卒寿記念 大場松魚展(第5展示室)

特集 加賀藩の美術工芸(前田育徳会展示室)

特集 加賀文化の華(第2展示室)

9月28日(木)～11月12日(日)

休館日：9月25日(月)～27日(水)

石川県立美術館だより 第275号

2006年9月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>